



学校だより

7月号

令和8年6月30日

日常で培う力

校長 西口 公恵

梅雨の合間の青空の下、プールから子どもたちの楽しそうな声が聞こえてきます。新年度が始まって三か月が経ちました。クラスや学年、そしてたてわりの友だちと力を合わせながら、毎日、協働的に学校生活を送っています。

5月、6月は1、2年生の岸根公園遠足、4年生の上郷宿泊体験学習、5年生の三浦宿泊体験学習、6年生の日光修学旅行等がありました。どの学年も大きなけが等もなく、皆、元気に学校に帰ってくることができました。何より「自分たちで活動を創っていこう。」という子どもたちのエネルギーが大変素晴らしく、しおりを見ながら主体的に行動する姿に大きな成長を感じました。同時に、子どもたちの発する一言ひとことを側で聞きながら、思わずくすつと笑ったり、「ここまでできるのか」と感心したりと中丸の子どもたちの力や、素直さや朗らかさ、相手を意識して行動できる謙虚さを改めて感じた行事にもなりました。

例えば…、1、2年生の遠足の日はとても暑かったので、子どもたちはだいぶ疲れているだろうと思っていたのですが「お帰りー！」と声を掛けると「あ〜、疲れた。でもすごく楽しかったよ〜！」と元気に返してくれました。一人ではなく、帰ってくる子皆が、疲れているはずなのに「ただいま。」と元気に言える。これはなかなかできることではありません。また、宿泊体験学習では施設の方やお世話になる方々への挨拶やお礼をどの学年もしっかりと言えており、感謝の気持ちをもち体験学習に臨んでいることがよくわかりました。日光の華嚴の滝では外国の方と「ハロー。」と笑顔で挨拶を交わしたり、お土産屋で「こんにちは。」と挨拶をしたりして「偉いわね。あなたたちどこの小学生？」と褒められてもいました。宿舎では進んでごみを拾う姿や食事の後をきれいに片付けようと声を掛け合う姿もありました。学校から一步外に出たときに、当たり前のことを当たり前にできるということは、普段やっていなければ簡単にできるものではありません。日頃の学校生活で、子どもたちが相手を思いながら行動していること、自分の思っていることを明るく朗らかに表現しようとしていることがよく分かり、成長を感じた行事となりました。これからも日々の学校生活の中で、子どものもつ力を認め、励ましながら、教職員一同一丸となって教育活動に取り組んでまいります。7月もどうぞよろしくお願いいたします。